

科目名 Course Name	「食」介護支援演習 Care Support of Diet						
年次	2 年	期別	前期	単位数	2	授業形態	演習
担当者氏名	山崎敬子						
連絡先(質問等)	福祉棟 3F 研究室かメールで対応						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2,DP3,DP4						
授業の概要と到達目標	老化や障がいによる摂食過程での機能低下について学習し、口から食物を摂取する重要性を理解するとともに、栄養士の立場から対象者の QOL(生活の質)を高めるための食支援の方法を講義・演習・実習を通して習得する。 ①高齢期の身体的特徴を認識し、適切な食事について述べる事ができるようにする。 ②対象者の心身の状態に応じた介助法を実践することができるようにする。 ③各段階別の食形態を踏まえ、対象者の心理的影響に配慮した献立を考案することができるようにする。						
授業の方法	配布プリントを使って説明を行い、その後 1 グループ 4～5 名の班ごとにグループディスカッションをして手順や分担を検討してから実習や演習を行う。						
学習成果	L01	高齢期の身体的特徴を認識し、適切な食事について説明することができる。					
	L02						
	L03	① 対象者の心身の状態に応じた介助法を実践することができる。 ② 各段階別の食形態を踏まえ、対象者の心理的影響に配慮した献立を考案することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは確認・評価後に各自に返却してフィードバックする。						
教科書/参考図書	教員作成資料を配布						
履修上の留意点やルール等	●実習の身支度については忘れ物がなく衛生的であること。マニキュアや長い爪は厳禁。●事前事後学習に費やすべき時間の目安は概ね各回 120 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	実習・演習では、学習の目的を正しく理解し、グループ内での話し合いを積極的に行っており、周囲の状況を的確に把握し、連携して作業を行っている。	20			
レポート/作品	期間内に提出されており、課題(学習の目的)に対して内容が的確であり学習の成果が見られるような考察が書かれている。			80	
発表					
小テスト					
試験					
その他					
合 計		20		80	

回数		授業計画
1	授業内容	講義) 授業概要、食介護支援の意義、高齢者の身体的機能変化、評価方法の説明
	事前・事後学習	高齢者の身体的機能変化について調べる。
2	授業内容	講義) 高齢化と嚥下障害 嚥下のメカニズム
	事前・事後学習	摂食・嚥下運動について確認する。
3	授業内容	実習) 摂食・嚥下運動の理解( レポート① )
	事前・事後学習	レポート①をする。
4	授業内容	実習) ユニバーサルデザインフードの区分・試食、凝固剤の特性と濃度による相違( レポート② )
	事前・事後学習	レポート②をする。
5	授業内容	実習) レベル分類別高齢者の食事(1)( レポート③ )
	事前・事後学習	レポート③をする。
6	授業内容	実習) レベル分類別高齢者の食事(2)( レポート④ )
	事前・事後学習	レポート④をする。
7	授業内容	実習) 増粘剤の使い方 ソフト食(1) ( レポート⑤ )
	事前・事後学習	レポート⑤をする。
8	授業内容	実習) 増粘剤の使い方 ソフト食(2) ( レポート⑥ )
	事前・事後学習	レポート⑥をする。
9	授業内容	実習) 展開食(1) ( レポート⑦ )
	事前・事後学習	レポート⑦をする。
10	授業内容	実習) 展開食(2) ( レポート⑧ )
	事前・事後学習	レポート⑧をする。
11	授業内容	演習) 展開食 個人献立立案 ( レポート⑨ )
	事前・事後学習	レポート⑨をする。
12	授業内容	演習) 展開食 グループ献立立案 ( レポート⑩ )
	事前・事後学習	レポート⑩をする。
13	授業内容	実習) 高齢者疑似体験・片麻痺体験による調理実習 ( レポート⑪ )
	事前・事後学習	レポート⑪をする。
14	授業内容	実習) グループ考案の展開食実習 ( レポート⑫ )
	事前・事後学習	レポート⑫をする。
15	授業内容	まとめ( レポート⑬ )
	事前・事後学習	レポート⑬をする。